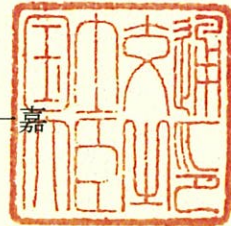


# 認 定 書

国住指第 1504 号  
令和元年 10 月 17 日

J F E 建材株式会社  
代表取締役社長 久保 亮二 様

国土交通大臣 赤羽 一嘉



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第七号並びに同法施行令第 107 条第一号及び第二号（床：2 時間（第一号）、1 時間（第二号））の規定に適合するものであることを認める。

## 記

1. 認定番号  
FP120FL-0197
2. 認定をした構造方法等の名称  
軽量コンクリート・デッキプレート造床（合成スラブ・単純支持）
3. 認定をした構造方法等の内容  
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

## 1. 構造名

軽量コンクリート・デッキプレート造床(合成スラブ・単純支持)

## 2. 寸法及び形状等

(寸法単位：mm)

項 目	仕 様
床 厚	80 以上
荷重と支持間隔の 関係	・ 支持間隔 3, 200～3, 600 の場合 自重を含めた全荷重 (w) × 支持間隔 (L) の 2 乗 = 125. 5kN 以下 (一般的な支持間隔と荷重を表-1 に示す。)
支 持	単純支持

注) 全荷重 = 固定荷重 + 積載荷重

## 3. 構成材料

## 1) 主構成材料

(寸法単位：mm)

項 目	仕 様
① デッキプレート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 規 格 JIS G 3352 (デッキプレート)</li> <li>・ 厚 さ 1. 0、1. 2、1. 6</li> <li>・ 山 高 さ <math>75_{\pm 1.5}</math></li> <li>・ 働 き 幅 <math>300_{-2+8}</math>、<math>600_{-2+8}</math></li> <li>・ 形状寸法 別添-5 参照</li> <li>・ 種 類 (1)～(5)のうち、いずれか一仕様とする (1) SDP1T (厚さ 1. 2、1. 6 に限る) (2) SDP1TG (厚さ 1. 2、1. 6 に限る) (3) SDP2 (4) SDP2G (5) SDP3</li> </ul>
② コンクリート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 種 類 軽量コンクリート</li> <li>・ 呼び強度 21～40</li> <li>・ 厚 さ デッキプレート山上から 80 以上</li> </ul>

項 目	仕 様
<b>3</b> ひび割れ拡大 防止用鉄筋	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1)溶接金網 ・規 格 JIS G 3551 ・種 類 (イ)～(フ)のうち、いずれか一仕様とする (イ)WFP (ロ)WFC (ハ)WFR (ニ)WFI (ホ)WFP-D (ヘ)WFC-D (ニ)WFR-D (フ)WFI-D ・線 径 6以上 ・間 隔 100以下×100以下 ・かぶり厚さ 床上面から 30 (2)鉄筋(異形鉄筋) ・規 格 JIS G 3112 又は JIS G 3117 ・断面寸法 D10以上 ・間 隔 200以下×200以下 ・かぶり厚さ 床上面から 30
<b>4</b> 耐火補強筋	鉄筋(異形鉄筋) ・規 格 JIS G 3112 又は JIS G 3117 ・種 類 SD295A, SD295B, SD345, SD390, SD490, SDR295, SDR345 ・断面寸法 D13以上 ・間 隔 300(デッキプレート溝部中央) ・かぶり厚さ デッキプレート溝部底面から 40

## 2) 副構成材料

(寸法単位：mm)

項 目	仕 様
①スペーサー	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1)鉄材 ・線径、板厚 規定のかぶり厚さが確保でき、施工時に変形等しない線径、板厚以上 ・間 隔 1000 以下 (2)セメントブロック ・寸 法 規定のかぶり厚さが確保できる断面寸法以上 ・間 隔 1000 以下
②梁と床版の 接合方法	頭付きスタッド ・規 格 JIS B 1198 ・寸 法 $\phi 16$ 以上 $\times\phi 110$ 以上 ・間 隔 300 以下
③梁とデッキ プレートの接合 方法	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1)アークスポット溶接 (2)すみ肉溶接

表-1 一般的な支持間隔と荷重

支持間隔 (mm)	自重を含めた全荷重 (kN/m <sup>2</sup> )
3200	12.26 以下
3300	11.52 以下
3400	10.86 以下
3500	10.24 以下
3600	9.68 以下

注) 支持間隔が表の中間の値の場合は  $WL^2=125.5\text{kN}$  以下であることを確認すること

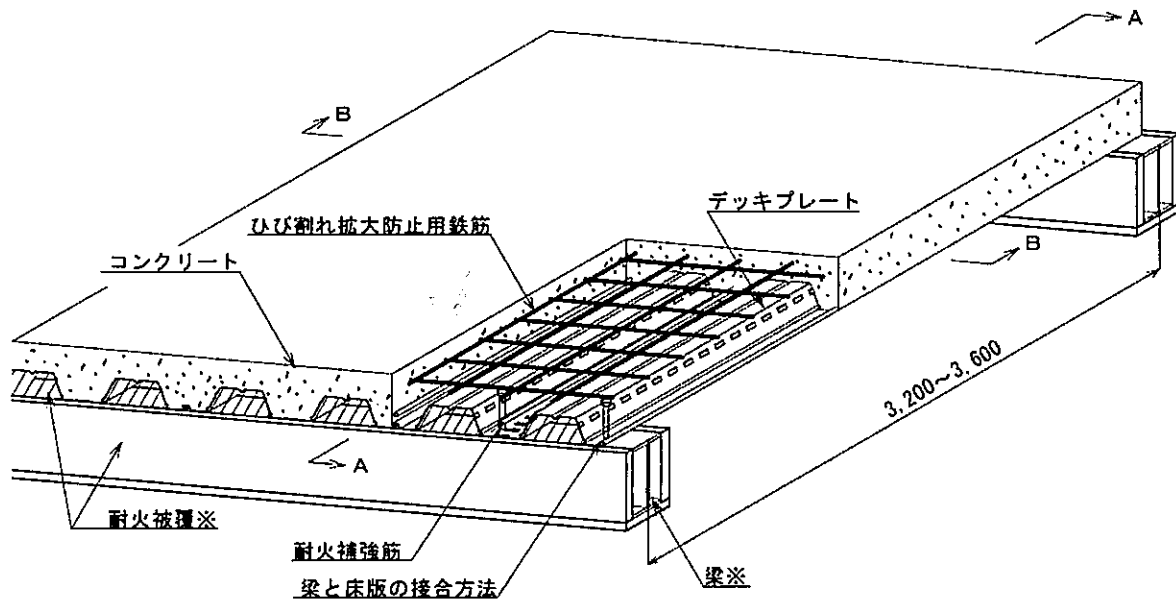
W : 自重を含めた全荷重 (kN/m<sup>2</sup>)

L : 支持間隔 (m)

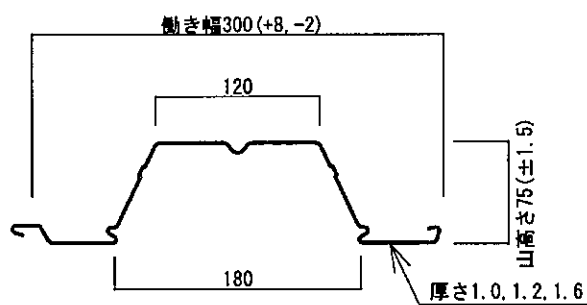
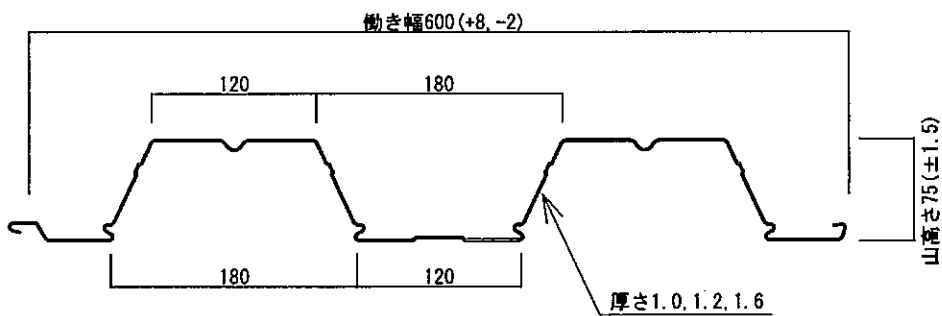
4. 構造説明図

[透視図]

(寸法単位：mm)

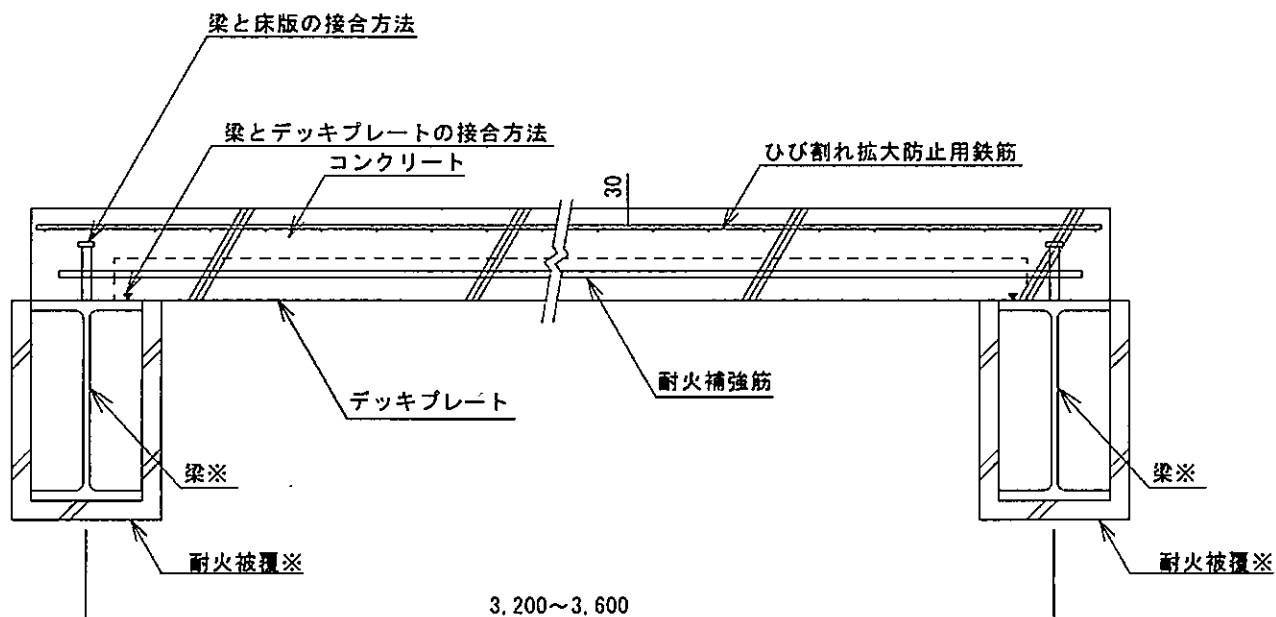


[デッキプレートの形状・寸法]

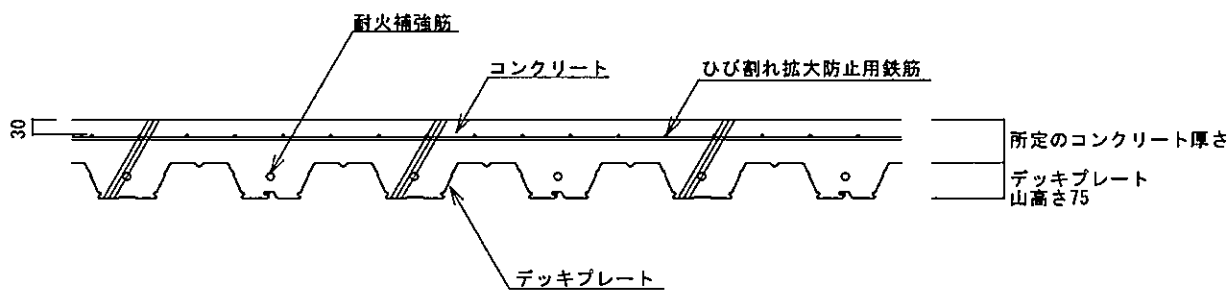


注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

※：本評価内容に含まない



A-A 断面図



B-B 断面図

注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

※：本評価内容に含まない

## 5. 施工方法等

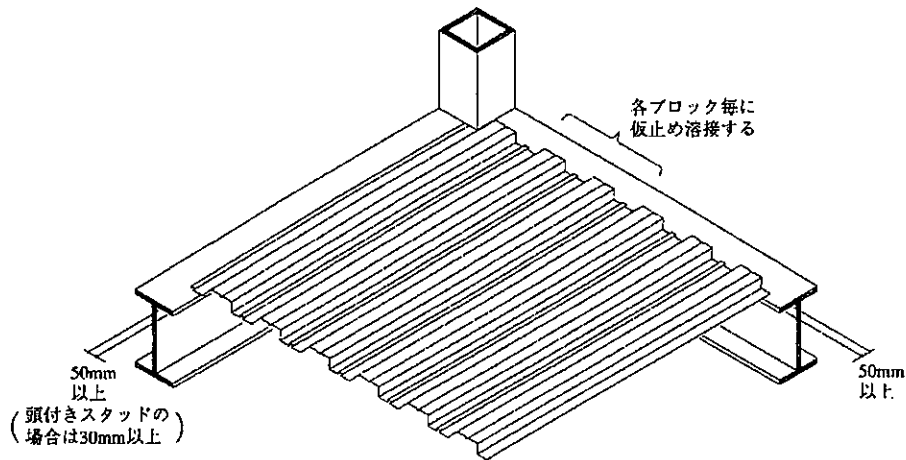
### <施工図>

#### 4. 構造説明図と同じ

### <施工手順>

#### 1) デッキプレートの敷込み

支持梁の墨出し線に合わせて1枚目のデッキプレートを仮止め溶接した後、順次適当な枚数間隔(5～10枚)毎に仮止め溶接する。デッキプレートの小口はコンクリート漏れ止めの処置を行う。

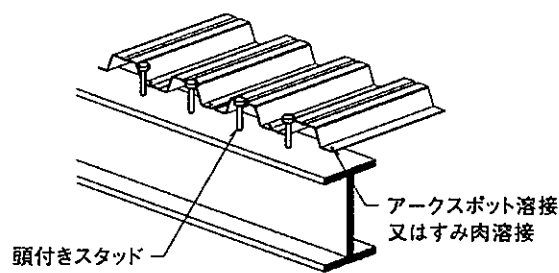


#### 2) 合成スラブと梁との接合

合成スラブと鉄骨梁とは、頭付きスタッドで接合する。

デッキプレートの溝部で頭付きスタッドを接合する場合は、各溝に1本以上接合する。

デッキプレートと鉄骨梁とは、頭付きスタッドの施工前に、すみ肉溶接、アークスポット溶接等で接合する。



#### 3) デッキプレート相互の接合

デッキプレート相互の接合は、嵌合・溶接・ビス等により構造上・耐火上有効に行う。

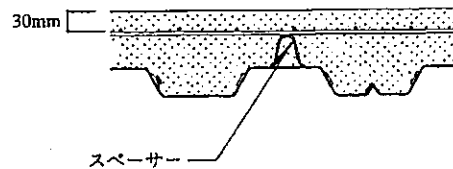
#### 4) 耐火補強筋の設置

耐火補強筋はデッキプレートの各溝部中央、溝部の底面から40mmの位置に配筋する。スペーサーは1.0m以下のピッチで配置する。



#### 5) ひび割れ拡大防止用鉄筋の設置

溶接金網はスラブ上面より 30mm のかぶり厚さを確保して、梁上を含め床全面に敷き並べる。スペーサーは 1.0m 以下のピッチで用いる。異形鉄筋を用いる場合は D10 以上をタテ、ヨコ間隔 200mm 以下で、スラブ上面より 30mm のかぶり厚を確保して、梁上を含め床全面に敷き並べる。配筋の詳細は「JASS5 鉄筋コンクリート工事」（日本建築学会）に準じて、特記（例えば、構造評定や性能証明を取得した工法等）によるか、または、JASS5 の記載例による。



#### 6) コンクリート打設

溶接金網または異形鉄筋が移動しないように注意しながら、コンクリートを不陸なく打ち込む。コンクリートの施工については「JASS5 鉄筋コンクリート工事」（日本建築学会）に準じて行う。

#### 7) 仕上げ

原則としてコンクリートの表面は金ごて等の仕上げを施す。

#### 8) 養生

コンクリート打込み後の養生は「JASS5 鉄筋コンクリート工事」（日本建築学会）に準じて行うが、初期には湿潤養生を行い、十分な養生期間をとるよう留意する。

#### 9) 梁の耐火被覆

梁に所定の耐火性能を要求される場合は、それらに応じて梁が露出しないように適切な耐火被覆を施す。